



坂東地域

アグリ通信

令和2年3月19日

坂東地域農業改良普及センター 発行

Tel : 0297-34-2124 Fax:0297-34-3291

茨城パン小麦栽培研究会が令和元年度全国麦作共励会で入賞しました

茨城パン小麦栽培研究会は、坂東市や境町を中心とした6市町(約100ha)で、12名の生産者がパン用小麦「ゆめかおり」を栽培するグループです。

実需者ニーズに即したタンパク質含有率の小麦を安定生産するため、地図情報システムを活用した追肥診断や、乾燥機ロット単位のタンパク測定・管理など、自らの創意工夫により新たな生産販売の取り組みを進めています。



平成26年度の研究会発足以来、目標タンパクでの販売を継続して実現し、実需者の信頼を高めています。

こうした取り組みが全国麦作共励会で評価され、この度、全国農業協同組合中央会会長賞を受賞し、令和2年2月27日に授賞式が開催されました。今後とも地域の麦作振興に向けたますますの活躍が期待されます。

普及センターでは、今後も関係機関と連携を図りながら、「ゆめかおり」の産地拡大を支援していきます。

古河市の女性農業者組織「桃HANA❀」が視察研修を行いました



2月19日、古河市の「桃HANA❀」が、移動研修として行方市の「なめがたファーマーズヴィレッジ」を視察しました。

「なめがたファーマーズヴィレッジ」は「やきいもファクトリーミュージアム」、「レストラン」、「土産販売所」で構成されており、キュアリング倉庫や冷凍庫、焼き芋専用オーブン等を見学しました。また、サツマイモを使った様々なお菓子やジェラート、パンの販売があり、今後の農産加工研修会の開催

において様々なアイデアやヒントを得ることができ、充実した研修になりました。

また、移動バスの車内では、普及センターから家庭のコミュニケーション促進に活用できる資料等を提供しました。

普及センターでは、今後も女性農業者の資質向上と農業への活発な参入を支援していきます。



農業には若さがある

今回は古河市の鈴木 達郎・解(すずき たつろう・とき)さんご夫妻をご紹介します。解さんは就農1年目、達郎さんも今後就農予定で、干し芋のネット販売・直売をしています。



■ どうして就農しようと思ったのですか？

—もとは会社員でしたが、代々受け継がれてきた古民家に住みはじめ、それを活用しながらビジネスをしたいと考えていました。また、自分の手で経験を積み重ねられる、よりフィジカルで本質的な仕事がしたいという思いから農業に触れ、原料生産から加工販売まで自分が行い、加工プロセスがシンプルでごまかしの利かない素材として干し芋に辿り着きました。「古民家」をテーマにしたビジネスを模索する中で、その一つとして農業へ行き着いた、という経緯です。

■ 就農してからの心持ちはどうですか？

—農業は手足を動かすのでより生命活動に根差しているな、と感じます。

■ 農業の魅力、大変なところはなんですか？

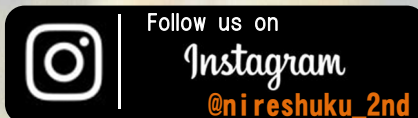
—サツマイモの栽培から干し芋を作るまでの全ての工程が好きなので、作業自体に魅力を感じます。大変なところですが、干し芋は原料ごとに発色が異なるので、きれいな色が出せるよう日々奮闘しています。

■ これからの目標はなんですか？

—まずは基本的なことですが、夫婦ともに生活していける経営を続けていくことです。また、「古民家」を主軸に置いたビジネスの枝葉を多方面に伸ばし、地域のコミュニティ形成、ここでしかできない街づくりや活性化のお役に立てればと思います。もちろん、主力の干し芋はさらに質の向上を目指し、販路拡大や食べ方等の普及にも力を入れていきます。

■ 若い農家へのメッセージ

—農業のスタンスは自由なので、「自分はこういうことを体現したい！」という目標があって、その手段として農業を選択すると、自ずと質の高い仕事を楽しくやれるようになるのではと信じています。



4月 土壌診断実施日のお知らせ

▶ 4月8日前後、22日前後(予定)

※4月の実施日は未定です。

- 個人の農家の方が対象です。
- 受け付けは先着順となりますので、お早めにお持ちください。電話等での予約は行っておりません。
- 1回の診断で50点までの分析となります。超えた場合には次の診断日となります。
- 1人あたり5点以内の持ち込みでお願いします。

編集後記

新型コロナウイルスの影響により、今年度アグリセミナー等の講座は中止や延期にさせて頂きました。この先の情勢がしばらく読めませんが、今後も生産者の皆様のお役に立てるよう支援していくことに変わりはありませんので、引き続きどうぞ宜しくお願い致します。(札)